本庄村史資料

深山家文書（追録一）

神戸深江　生活文化史料館

目　次

慶應三年　種痘免許…大阪種痘館……(1)
亥未七月　種痘免許…兵庫県……(1)
自安政～至明治　種痘姓名録……(2)
きゅう屋商許可書……(2)
送状之事　差許書……(3)
送状之事　差許書……(4)
肴屋茂吉病死ニ付遺族へ知らせ方依頼……(5)
明治廿八年　虎列刺大流行の状況報告……(6)
明治三十七年國内戰捷祝賀の状況報告……(7)
明治三十八年本庄村長よりの慰問状……(8)
明治三十八年陣中見舞を兼ね當地現況報告(9)
陳　情　書……(11)
深山村長退任感謝状……(17)
芦屋川改修功労に対する感謝状……(18)
源左衛門一件……(19)
質物差入銀子借用証文之事……(20)
差入申借用銀一札之事……(21)
三條村照楽寺養子世話一條證文之写不通養子證文之事(23)
一札（加茂村岩田屋五良三郎～照楽寺）……(24)
一札（深山宗詮～三條村照楽寺）……(25)
優曇華由来……(26)

慶應三年種痘免許…大阪種痘館

今般牛痘之施術及真假
鑒定之口決筈得其意候ニ付
令分苗候以来本館之規則ハ
勿論仁術之本旨相守疎漏
無之様可相心得候　以上

大阪
慶應三年
十卯十日　　種痘館㊞

丹波元禮組合
摂州菟原郡深江村
深山玄石方

亥未七月種痘免許…兵庫県

菟原郡深江村
深山玄碩

其方儀　願之通
当縣管下種痘方
令免許候条懇篤
之扱を以而實体
施術可致事

亥未
七月　　兵庫縣㊞

自安政～至明治　種痘姓名録

（カルテ数）

安政	105
万延	96
文久	712
元治	45
慶應	51
明治	123
計	1134

表

水抜　江戸吉の西隣　借家
○福田屋安次郎　一才　女子

水抜会所の家　東行當り
○大和屋庄助　廿五才

札場通浜
○赤尾屋久吉　五月生　一才　元吉

裏

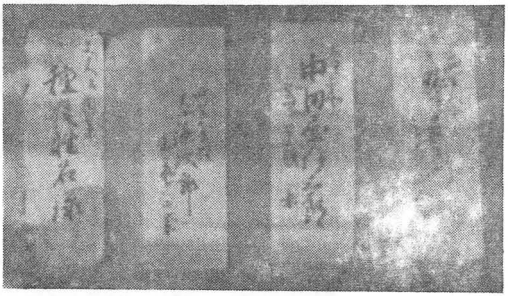
文久　戌　十一月一日
○左　○　○　○
右　○　○○○　○　三　又

文久　二戌　霜月朔旦
○左　○○○
右　○○○○　○　四　又

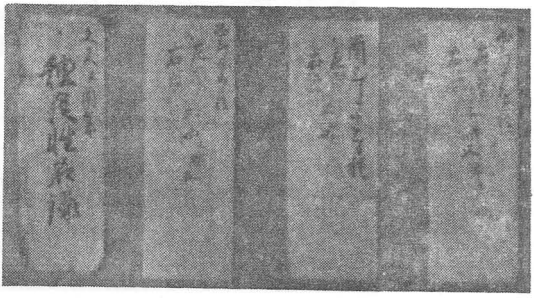
未　十月廿二日種
○左　○○○　○　貫　膿　期
右　○○○　○　三四　至収厭面二児
混陽　小松文晴　令苗宣傳染　種

きゅう屋商許可書

表



裏



送状之事　一差許書

表

送状之事

一、唐米　五千斤

右御改済之品積送候御改請取可被成候以上

午

壬月十四日　　貿易商社㊞

山本屋

長兵衛殿

裏

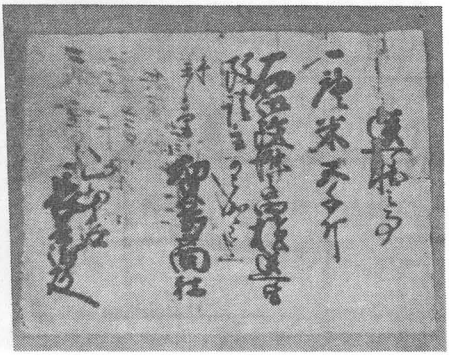
表書之品積送差許者也

兵庫縣

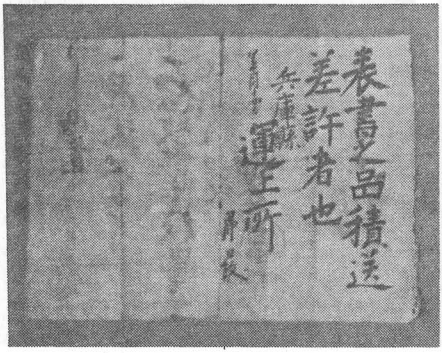
運上所㊞

八己十月十四日　　帰日　改㊞

表



裏



送状之事　一差許書

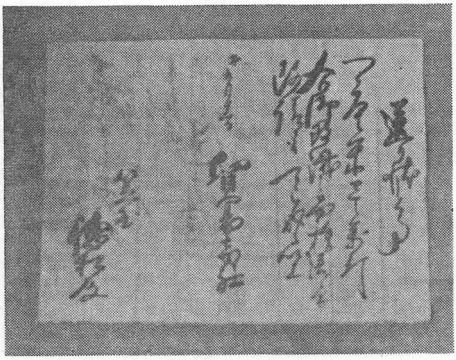
表

送り状之事
一、唐米　壱萬斤
右御改済之品積送候御
改請取可被成候　以上
午九月十二日　貿易商社
笠屋
徳松殿

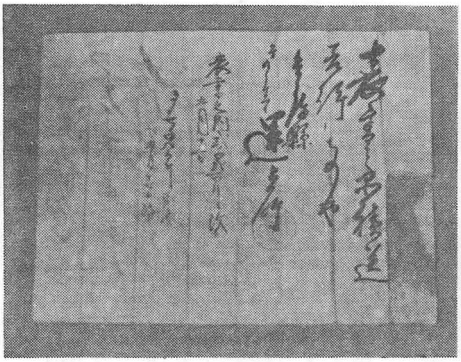
裏

表書之品積送
差許ノもの也
兵庫縣
午九月十二日　運上所㊞
表書之内弐千弐百斤㊞
九月十三日
一〆七千八百斤　皆済
九月十七日　改㊞

表



裏



子正月

肴屋茂吉病死ニ付遺族へ知らせ方依頼

未タ不得御意候得共追々春暖ニ相成候許、益御一統様御気嫌能被遊御座恐悦至極奉存候、従而當方無事罷在候間乍憚御安意思召可被下候、然者其御国西之宮出生之茂吉ト申者四拾余年以前當所参住居仕候處、去霜月頃ゟ病気之所當正月十六日病死仕候、然所西之宮在所ニ親類衆之名前一向不相訳、御爲知申上處候へとも西之宮ト申事計承り置候間誠ニ以困入申候、家内之者申候ニハ、先年上京仕候節在所へ尋寄候節貴君様方へ参候よし申候、常々茂吉も申し出來

貴君様御世話ニ相成居候様申候故、何卒御苦労ニハ候得共茂吉親類方へ鳥渡右由御爲知被下候様御願申度、家内ゟ宜敷申上呉候様申事御座候、私儀ハ肴商賣仕候肴屋次郎十ト申者ニ御座候所、先年茂吉初而岡崎江参候節浄留りかたりの爲蔵ト申者ヲ尋参居候所、元茂吉も肴商賣致候ニ付爲蔵ゟ私方江頼暫私方居候處、一両年も過候而ゟ町中肴爲売呉候様相願候ニ付別宅仕肴賣仕候、凡四拾余ニ相成親類同様ニ仕居候間病死仕候へハ甚残念存候、

右之仕合御座候故一向在所衆中名前相不分、貴君様之御名ハ攝州灘深江村深山宗仙様申事常々茂吉申候ニ付奉御苦労掛候、何卒相分候ハヽ、親類方迄御爲知可被下候、奉頼上候、尤改名法名ハ別紙ニ申上候、右親類方へ右之由御頼申上右御爲知申上如此御座候、草々謹言

子正月廿五日出　　岡サキ

肴屋次郎十

深江村

深山宗仙様

尊下

明治廿八年虎列刺大流行の状況報告

書翰披見委細承知致し候、如来諭時下向暑之候愈無事被成勤務大慶ニ存候、次ニ當方始メ深江之方も皆々無事ニ暮し居候間此段休神可被成候、却説足下勤務非常ニ繁忙ナル事際し候、就而ハ可及的攝生ニ注意有之度候、當方出水云々記載有之候へども是ハ唯一時小川ニ出水致し候様之事ニ而水害ト申様之事ハ無之候間休神可被成候、當地も先月末より虎列刺流行し、小生も檢疫之一部ニ加へラレ繁忙之上ニ繁忙ヲ極メ實に困リ居候、當地之分大抵一日或ハ四五時間ニシテ弊ルモアリ、實ニ是迄一回も實見セシ事ナキ症アリ、如何トナレハ呕吐而已ニ弊レ又ハ下痢而已ニテ弊ルヽモ之アリ、過日神戸檢疫所より医学士参リ咄し候ニ神戸も同断之症夥多有之趣キ咄し居候、實ニ本年の虎列刺ハ古来未層有之刺的ニ候、能々食物ニ注意被成度候、先當地刺的今日迄之景況ニてハ十中ニ一救命無覚束様被存候、先ハ厄報迄申述度繁忙中取急キ乱筆御推讀被成度候

（明治廿八年）
七月十六日

深山玄碩

稲垣廣三郎殿

明治三十七年國内戦捷祝賀の状況報告

時下朝夕ハ稍秋冷相催し候處、足下益健躰被成勤務候趣キ大慶ニ候、却説本年ハ當地方ハ不□及全国流行病ハ近年ニ稀ナル小數ニ而、西宮ニテ當春より赤痢三名、灘地方ニ而青木村ニ類似虎列刺壱名發生セし而已、両家とも家内者皆々無事ニ暮し居候間御休神可被成候、陳者先般池川より報告爲致候安産之義ハ定メテ承知之事ト存候得共重復報知致し候、七月十日男児分娩母子共健全、名ヲ寛ト相付し不取敢役場へ届置候間、宜敷御承引可被成候、扨本年ハ天候良順ニシテ全国十二分之豊作、古來未曽有之事ト存候、然ル處毎々戰捷之号外ヲ配達シ、過日遼陽占領之際抔ハ當町之如キハ提灯行列ニ種々之姿ニ変化シ老婆ガ娘トナリ、戎大黒其他種々之異状有之、就中人眼ヲ引キタルハ酒袋ニテ洋服ヲ製シ細縄ニテ軍服之飾リヲナシ、一中隊斗りラッパヲ吹キ石炭油之明空ヲ扣キ市中ヲ練歩行タルヲ第一トス、夜中本町ハ十日戎之祭日之如ク群集シ、市中両側ハ軒下ニ戰捷之軒吊提灯ヲ間口ニ應シ數張ヲ吊シ、道路上ニハ南北屋根ヨリ屋根へ藁縄數百筋ヲ渡シ、其縄ニ紅摺提灯國旗ヲ吊シ夜中蠟燭ニ火ヲ点ズレバ晝ヲ欺ク斗リ之景況ニシテ、新聞紙ヲ観ルニ全國至ル處皆々同様之事ト想像致し候、右之次第ニ候へ者當方之事ハ放念被成、追日寒冷ニ向ヒ候得者自愛大切ニシテ國恩ヲ報ゼン爲勤務勉勵可被成候、先者當地概略如此ニ御座候、餘者後便ニ譲リ候也

九月十六日　　深　山

深山廣三郎殿

明治三十八年本庄村長よりの慰問状

拝啓仕候余寒厳敷呉處御壮健ニテ軍務ニ従事セラルヽ候段爲國家奉賀申候

偖テ御出征以来既ニ拾余ケ月間炎熱ニ冒シ寒気ヲ凌キ万難ヲ排シ目下厳寒ノ異域ニアリテ勇敢ナル御動キ在セラルヽ其御辛労ハ実ニ言吾筆紙ニ難盡唯感謝スルノ外無之茲ニ一言以テ御慰問ノ意ヲ表候也

二伸内地本村状況ヲ報告仕候

一、明治三十七年六月十五日玄海灘ニ於テ常陸丸遭難ノ際乗船常陸丸ト共ニ沈没戦死シタル深江村出身ノ納多末吉、岡田弥三吉ノ両氏ニ對スル村葬ハ本年一月廿日之ヲ執行シ盛葬ニ有之候

二、奉公義会ナルヲ成立シ其役ヲシテ客戸ヨリ毎月金品ヲ徴収シ出征軍人家族ノ救護ニ遺憾ナク励行シツヽアリ

三、本村出軍人中ニ戦死セシモノハ前記之弐名而已ニシテ負傷者ハ青木出身上田兼吉（貫通銃傷）氏ナリ然レトモ既ニ療養中ニシテ畧詮快シ居モノヽ如シ其他病気爲メ除隊セラレシモノハ深江村ニテ松井政吉・飯田正次郎・岩井岩次郎・永井丑松・小川作藏・高見仲三郎、青木村出身笠谷喜之介・梶井亀太郎・飯田徳松（飯田徳松ハ予備病院ニ収容中）ニ有之其他ハ陸海軍共皆無事ニテ軍務ニ従事セラレツヽアリ又本村ヨリ出征軍人ノ数ハ現役予后備、補充共六拾五名ノ多キニ達シ今尚ホ召集ニ應召シツヽアリ

四、本年徴兵適齢者三千名ノ内一年志願兵二名海軍志願兵九名ニシテ戦争大勝利ノ結果本村青年ハ軍事思想ヲ高メタリ

五、本村々民ハ戦後ノ至営に注意シ農家ハ其農業ニ勉励シ商工業家モ又大ニ奮励シツツアリ、前年ヨリ國債募集三回ニ及ヒシモ其都度割当額ノ三倍乃至四倍ニ達シ應募申込ヲ爲シタル之皆貴君、等、勇敢ナル戦闘大勝利ノ結果ナラン

六、教育、衛生、等ニ至テモ充分注意シ目下ノ生徒ハ第二ノ軍人タラン思想ヲ養ヒツツアリ、貴君ノ御息女二人日々学校ニ通学シテ能ク勉強シツヽアリ毎度軍人ノ入営ニハ学校生徒一般ニ観送シ実ニ愛ラシキ声ニテ軍歌ヲ奏し送観シツツアリ

以　上

明治卅八年二月十五日

兵庫縣武庫郡本庄村長

福　井　辰　藏　㊞

陸軍二等軍医深山廣三郎殿

追テ新年賀状差出ヘキ筈之処其筋ノ注意ニヨリ之レヲ見ハセタル義ニ付不悪御了知ヲ乞

明治三十八年陣中見舞を兼ね当地現況報告

六月十九日出之書面致披見委細承知致し候、嘸々繁務之事ト致遠察候、併し足下身体ニ異状ナキ事何より大慶ニ存候、當方も春以来お照及ヒ深江晃共病痾に罹リ候得ども今快致し、其後者両人とも以前よりハ肥満致し、晃ハ頗ル付之健康ニ相成居候間御休神可被成候、扨先々月海戰大戰捷ニシテ敵國軍艦殆ト全滅セシ趣、定メテ新聞紙ニ而承知之事ト存候、夫故内國人ハ何國も狂気之如ク大賑ニテ、己ニ當町之如キハ酒造家一統元祿時代之衣装ニ而、腰ニ木刀之大小ヲ差し頭ニハ其時代之鬢ヲ冠リ、一統打揃ヒ廣田神社へ参詣シ、夫ヨリ戎社内ニ帰リ該境内ニ者種々模偽店ヲ出シ、飲食物ハ不及付當町藝妓悉皆元祿時代之姿ニて元祿踊ヲ成シ、各町ヨリハ種々之踊ニハカヲ成シ、屋臺ニハ小女之舞等ニて大雑沓ヲ成居候處雨天ト変シ、其後ハ日々打續降雨而已ナルヲ以テ中絶致シ候、乍然本年ハ珍敷大雨ナ

レトモ當郡内ニハ水損ハ少しも無之、農家者麥之収獲時ナレバ少々迷惑之趣キ位ニて先々結構ト云ザルヲ不得候、次ニ信次嫁之義ニ付お貞ゟ委敷申送リタル事ト存候、今般川辺郡加茂村農家佐々木介太郎より至極秘素ニして貰受、懇意先者不及申親藉よりも半紙壱折タクトモ更ニ不受、唯雇人同様之事ニして相済し候、何れ足下兄弟帰郷之上始メテ披露可致心算ニ候得共宜敷御承知置被下度候、猶又犬之義も承知致し嘸々悋キ事ト被察候得ども上官之命令ナレハ詮方無之次第ニ候、追日大暑に向ヒ候得者自愛専一ニシて勤務勉勵可被成候、先者返報迄

早々不備

七月三日

深　山

深山廣三郎殿

陳情書

恭シク一書ヲ戴シ謹ンテ閣下ニ呈シ敢テ清鑒ヲ仰カントス今般精道村ニ於テハ其傳染病院ヲ自村ノ内ニ建設セスシテ之カ敷地ヲ其隣接セル下名等ノ居邑タル本庄村ノ内深江村字泉ケ坪五百貳拾四番地、五百貳拾九番地ニ選定シタル趣承及候惟フニ此事タル我等深江村住民一同ノ休戚ニ関スル重大ナル問題ニシテ若シ討議ニシテ其ノ提案ノ如ク決セラレンカ吾等ハ其生活ノ安寧ニ對シテ痛烈凱切ナル打撃ヲ蒙ラズンバアラズ是下名等ノ到底點々トシテ忍フ能ハサル所ニ候敢テ左ニ其ノ理由ノ二三ヲ開陳シ閣下ノ淵慮ヲ累ハシ候

一深江村ノ発展ヲ妨ク

談指定地ハ深江村ノ北方電車線トノ中間ニ位シ精道村ノ内津知村ヲ距ルコト六十間深江村ノ人家ヲ隔ツルコト町余而シテ本邑ノ南ハ海岸ニ瀕シ漁家既ニ比櫛シ北部漸ク余裕ヲ残スノミ近時交通ノ便益愈々発達シ田園ノ家居倍々増加シ而モ村民ノ繁殖亦滋カラント然ラバ則チ傳染病院ノ建設ヲ此ノ地ニ見ルカ如キハ実ニ本村発展ヲ妨クルコト甚大ナルモノト云ハサルヘカラズ病舎ノ近通誰カ居寓ヲ求ムルニ快シトスルモノアランヤ而モ其地発展ノ衝々當ラントスル場所ナルニ於テヲヤ本村唯一ノ展足地ヲ奪フト共ニ又地價ヲ低落セシメテ経済的ニ損害ヲ及ホスモノ実ニ尠少ナラス我等ノ痛苦ニ耐ヘサル所以ノ一也

二衛生上憂フヘキモノアリ

談指定地ニ接通シ恰モ一水流アリ注下シテ深江村ニ入リ分岐シテ居民日常ノ使用ニ供セラル万一病毒ノ流ニ從ッテ散布スルコトアランカ其ノ及ホス所実ニ測リ知ル可カラサルモノアラントス勿論其設備ヤ敢テ等閑ナラサルヲ信スト雖モ都會ノ病院ニ於テスラ其使用人ノ怠慢等ヨリシテ往々衆庶ヲ塗毒セルノ事例亦乏シカラサルモノアリシヲ聞知ス況ンヤ邊鄙ノ邑落ニ於テオヤ緊急ノ

必要ナクシテ特ニ斯ノ如キ虞アル地点ヲ選マントスルヨリハ寧他ニ安全ナル場所ヲ定メンニ如カサルヲ思ク之シ我等ノ解スル能ハサル所ニシテ又タ憂怛措ク能ハサル所以ノ二也

三吾等ノ生業ヲ害ク

深江村ハ海岸ノ里落ニシテ住民ハ漁撈ヲ以テ主要ナル生業トス而シテ此ノ地ニ傳染病院設立セラレンカ顧客ノ嫌忌ヲ招クヤ必セク之レ人情ノ洵ニ已ムヲ得サル所ナリ況ンヤ前述ノ如ク敷地ニ接セル水流注テ此海ニ入ルモノアルニ於テヤ万一ノ事ヲ稽ヘ曽ヲ虎疫ニ因テ大阪河水ノ使用カ厳禁セラレタリシ事実ニ想ヒ至レハ戰慄ヲ禁スル能ハサルモノアリ然ラハ則チ本村漁獲ノ魚介ハ一般ノ忌避スル所トナルヤ當然ニシテ吾等ハ其ノ生活ノ本源ニ一大恐慌ヲ受ケズンバアラズ是レ吾等ノ窮困極マラントスル所以ノ三也

四病舎ヲ此所ニ建設スルハ緊要事ニ非ズ

凡ソ社會公安ノ爲メ事緊急切実ノ必要ニ迫ルニ於テハ吾等亦多少ノ犠牲ヲ拂フノ已ムナキヲ知ル然レ共何等緊切ノ必要ナクシテ生活ノ安固ヲ害セラルヽカ如キハ吾等其理由ナキヲ思ハズンバアラズ吾等其属スル本庄村ニ既ニ一傳染病舎ヲ有ス深江青木両部落ノ中間ニ位シ又水流ノ衆庶ヲ害スル虞アルモノナク便利ニシテ安全ナル地位ニアリ本庄村ニ在ツテハ已ニ之ヲ以テ設備不完全ナラハ之ヲ改良スヘク舎室狭隘ナラハ之ヲ拡大スヘシ何ヲ苦ンデカ本村ニ對シテハ偏隅ナル泉ケ坪ニ之ヲ新設スルノ要アランヤ而カモ吾等住民ノ生活ノ利益ト將来ノ発展トヲ犠牲ニ供シテ之ヲ隣落精道村ノ爲ニ設置セントスルガ如クンバ事理ニ選ヒ常識ヲ失シ衡平ヲ欠キ吾等殆ント之ヲ評スルノ辞ナシ況ンヤ精道村ハ本庄村ニ比シテ面積数倍シ決シテ其村内ニ適当ナル土地ヲ求ムルニ苦シムモノニアラズオヤ其他現下ノ情況ヲ安察スルニ住民ヲ危虞ニ陥ラシメテ尚此

所ニ傳染病院ヲ建設スヘキ理由毫モ之ヲ発見スル能ハス是レ吾等ノ最モ惑フ所以ナリ以上具陳シ来レル分当詳悉細微ノ点ニ亘リテハ一朝ニ縷述シ盡スヲ得サルモノアリ只茲所ニハ重要ナル数点ヲ挙示セルニ過キス閣下願ハクハ之ヲ惟シ之ヲ察シ深ク研メ審カニ繹ネ明鑒ヲ垂レテ吾等住民一同ノ爲メニ憂惧ヲ排シ危殆ヲ除カレン事ヲ謹ンデ状ヲ具シ上申候

岡田正藏
飯田藤吉
永田亀吉
志井治太郎
岡亀吉
岡田浅太郎
鎌田久吉
多田竹松
礒野甚右衛門
谷川秀
野田松太郎
山口鉛藏
大堀ます
極楽寺彌吉
梶野太郎吉
永井彌太郎
田中彦七
納多治郎吉
長尾藤介
福岡善吉
岡野善三郎
岡野梅吉
古賀國太郎
藤本浅松
納多勘藏
宮内政吉
岡野音吉
神名治三郎
岡本新太郎
山下八介
岡田善藏
灘井幸吉

高見仲三郎
野田善吉
宮内岸松
岡野末吉
山本やく
中尾又市
岡田政市
礒野浅吉
難波久太郎
納多喜太郎
志井定吉
礒野助左ヱ門
中田秀一
飯田米吉
米田宗次郎
吉永増太郎
岡野重兵衛
永井定吉
高林妙吉
礒野亀三郎

灘井正治
伊東政吉
鎌田鶴松
濱崎政吉
寺田亀吉
中網竹松
岩本由松
松尾音吉
納多松之介
片田八三八
松下宇藏
鎌田米吉
松尾福松
山本伊之介
鎌田伊之介
鎌田寅藏
金岡栄太郎
納多常吉
清家易直
岡田久吉

小原吉之介
阪口拳石
木下石松
梶奈良次郎
納多増吉
岩井とめ
村辻亀三郎
岡部鶴太郎
末吉梶太郎
多田市太郎
永井定次郎
寺田正吉
松谷平吉
礒部万次郎
服部竹松
上田謙吉
納多千代松
花谷松太郎
花谷仙太郎
丸谷安藏

東野伊三郎
芦原三三三
宮内寅吉
宮内作藏
宮内音吉
岡田平吉
漁野音吉
野田德松
大照志友
灘井玉吉
田川新太郎
大川庄之介
魚谷安藏
横谷鶴松
清水佐吉
浜田治郎右衛門
濱本仁平
田賀宇之介
黒田藤吉
寺田安太郎

納田鶴松
藤井常藏
漁野市太郎
納多次郎吉
浜本兼吉
藤本種吉
岡田保太郎
田中栄藏
永井亀太郎
天王寺谷鶴藏
岡田市松
永井岩吉
前川治郎吉
志井德次郎
宮崎庄松
寺田音吉
濱田元吉
松井悦藏
飯田一馬

兵庫縣知事清野長太郎殿

深山村長退任感謝状

深山廣三郎氏大正二年五月二十七日当村村長ニ撰挙せられ仝年六月四日就任し爾来大正六年六月三日退任ニ至るまて孜々として村治の難局に当る在任一期に過ぎざるもしかも其間芦屋川の改修避病院の建築川崎商船学校の設立等本村前途の發展に関する幾多重大問題簇出す、芦屋川改修は起業村精道村なるも從来の関係上同村との共同事業にして拾四萬五千圓の豫算を以て大正四年十二月二十八日其筋の認可を得大正六年三月二十六日改修工事全く落成するに及び本村側の努力と主張の功果漸く見るべきものあらんとす、大正五年十二月二十八日縣知事の許可にかゝる避病舎建築に至っては坪数壱千五十坪経費壱萬九千圓を要し是又便宜の爲め精道村を御願村と爲すも實は二ケ村の事業の外ならず完成後組合組織の計劃あるもの此避病院建築に對しては村内に反對するもの現はれ幾多の紆余曲折を経たりと雖も幸に目下建築中なれば落成の上両村公衆衞生に貢献する所甚大なるべきものあるべし若し夫れ川崎氏か近時我國海運界の勃興に鑑み船員の不足を憂へ商船学校を設け偶偶本村を校舎建築地に選定したるは喜ぶべく之に要する敷地買収に對し大に盡力し能く公平を持し川崎氏と土地所有者の中間に介在し今や殆んど買収を全ふし今後正に本村の發展に資するものあるは疑ふべくもあらず　其他養老會を組織し高壽者を慰め或は教育事業に関し学齢児童の就学を勧め教職員を奬励したる治績の例挙すべきもの尠からず氏は實に自治政幾多波瀾の間に立ち温厚篤實の資性に加ふるに高潔の人格を以て衝に当り施政妥く前途の發展を先見したるものにあらざるはなし一時一部村民の反對に逢着し爲に自家醫薬の如き損耗を招来せしもの多きも更に意に介せず其素懐の欽望するに足るものあり云ふまでもなし今退任に際し村會の決議を経て茲に在任中の功績を記念せんため置時計壱個を贈呈

し感謝の徴意を表す

大正六年七月廿六日

兵庫縣武庫郡本庄村々長　木村梅太郎

深山廣三郎殿

芦屋川改修功労に対する感謝状

大正三年三月精道本庄両村ノ芦屋川改修ヲ企圖セシ以来貴下本村々長在職中畫策折衝宜シキヲ得豫定ノ事業其工ヲ竣ヘ今ヤ諸般ノ懸案悉ク圓満ナル解決ヲ告ク何ノ歓カ之ニ如カン是レ偏ニ貴下ノ崇高ナル人格ト公共ノ爲メニ努力ヲ惜マザリシ賜ニシテ感銘措カザル所特ニ既往ヲ回顧シテ感概切ナルヲ覚エ茲ニ村會ノ決議ニ基キ金盃壱個竝ニ羽二重壱匹ヲ贈呈シ聊カ感謝ノ徴衷ヲ表ス

大正七年十月三十一日

本庄村長　木村梅太郎

深山廣三郎殿

源左衞門一件

天保十二丑歳

銭商内ニ付上田新田村甚太郎ゟ被願附諸方
取引先ゟ取立ニ合候節親類一統立會相談之
上茂左門ゟ銀子取替諸拂左ニ記ス
当方取次之分

九月廿日

一金五両　播州梅ケ森
米出入残銀渡ス

一金六両　大阪天満
茶屋拂銀

一四百廿八匁　大阪郷宿拂
下七匁　庄屋へ渡

一金壱両弐歩　門戸村治郎兵衞
對談銀渡

一金五拾三匁三分　惣左衞門へ
頼母子銀残リ渡ス

一、金壱両二分二朱　藤左衞門
内百匁過戻リ　取替銀渡

一、銀弐百五拾六匁　米屋
九分九厘　嘉平次へ渡ス
手形ニテ

右ハ源左門畑地質入證文出入銀也此證文茂左
門へ渡此畑八百目ニ茂左門へ讓リ渡ス

一金壱両　当方取替銀
銀札八分　銭五十一文　請取
同弐匁
又金壱両二分

一、金弐両二分　庄屋へ渡ス
七月節季之
右ハ源左衞門被召出大坂兵庫呉田宿拂銀也

一銀弐百六分一厘　村方
又利足用捨　未進

六十二匁三厘がえ　茂左門へ渡ス
一金五両　取替銀

当方出銀割合　茂左門へ渡ス
九拾一匁四分八厘

右諸拂入用ニ付家屋敷坂口へ質入壱〆目也此外茂左門ゟ拂出し候拙者請取取次候分右ノ外之無候事此外諸入用書附茂左門ニ有リ

質物差入銀子借用証文之事

一、屋敷　貳畝廿六歩
分米　弐斗四升三合

一、建家壱ケ所
梁行四間、桁行、六間
藁葺
但シ戸樟子釘付不残
有姿儘

右之家屋敷我等所持ニ御座所此度無據要用之儀ニ付質物差入銀壱貫目慥ニ受取借用候所実正也然ル上ハ月壱日之利足加へ其元殿御入用之節元利共無滞急度返済可申候万一故障等出来候ハヽ請人罷出急度埒明其元殿へ少も御苦労相懸申間敷候爲後日質物差入銀子借用証文仍而如件

天保十二年　銀子預リ主
丑十月　源左衛門
右受人

仁左衛門
金　兵衛
藤右衛門
七　兵衛

坂口玄泉殿

右証文年限ニ相成處銀子調達難成候ニ付段々引合用捨ニ預リ新証文相認候写左之通リ

家屋敷賈入銀壱貫目本紙証文先年之通リ

嘉永三年　預リ主
戊十一月　源左衛門
受人
藤右衛門
同
庄九郎

玄泉殿

差入申借用銀一札之事

一、銀八百目也

右之銀子去ル天保十二年丑十月私共儘ニ借用仕候所実正也然ル所右銀子返済不仕御催促ニ預リ其段取曖人ヲ以御頼申入候所此度格別の御勘弁被成下我等出世仕候迄御宥免被下候段、重々難有仕合奉存候向後以来假令幾年相過候共渡世出来候節ハ急度御返銀可仕候爲後証一札仍而如件

嘉永三年　銀子預リ主
丑十一月　源右衛門
受人
藤右衛門
同
庄九郎

坂口玄泉殿

右之通利足銀壱貫八拾目之所段々引合用捨ニ相成銀八百目之出世証文ニ相成指入置候事

嘉永五子歳九月

一、源左衞門義三反田村□□□□外方へ賣拂銀子遣込勘定出来不申候ニ付大阪表へ被願附出奔仕リ□□青木村籠屋庄兵衞方ニ而世話ニ相成当村方へ立帰リ候節大阪宿拂難相成候ニ付村方ゟ親類之者へ割済被申附候出銀左之通リ

三拾六文二分七厘　茂左衞門
三拾六文　深　山
三拾目　仁左衞門
〃　善左衞門
〃　新左衞門
〃　紺　忠
〃　庄九郎
拾匁　此外分賣ニ付　金兵衞
〃　七兵衞
〃　佐兵衞
三拾目　藤右衞門

此者親類申分有之横屋村松田与左衞門方へ出稼仕居候留守中故村方ゟ用捨其替リ本人源左衞門ゟ実銭ニて少々入相すミ候

〆貳百八拾二匁二歩七厘

右之通村方相すミ候

三反田村借財方ハ籠庄ゟ三条村照楽寺へ引合銀子借用仕候而三反田證文被願相下ケ済方仕候事

三條村照楽寺養子世話一條證文之写

不通養子證文之事

一、其許殿御縁家之内ゟ当二月生定藏と申御小児不通ニ而貰請候則養育料として金子五拾両被下候約束右金子之内只今拾五両御渡し被下慥ニ受取申候残三拾五両ハ生長之上得導之節御渡可被下候處互ニ無相違実正也然ル上ハ大切ニ養育之義ハ不及申自然已後我等実子生候共右定藏惣領ニ相立我等跡式不残無相違相譲リ可申候追ハ已後何事ニ不寄其許殿迷惑筋一切申間敷候万一當方ゟ不縁仕候ハバ右養育料之金子無滞返済可申候爲後日不通養子證文仍而如件

嘉永元年　　養子親

申十一月　　三條村

照楽寺

親類惣代

深江村

岡源左衛門

右世話人

深江村

深山宋詮

加茂村

岩田五良三郎殿

親類書之写

三條村照楽寺

往古ヨリ実子相續此度養子×之事

西宮

鮒屋又左衛門

当住実母之出所也近年死絶ヘ相續之義貝屋伊左衛門引受之事右母青木村西蓮寺之娘ト成リ入嫁ス

兵庫波濤ヶ崎之新家町

貝屋伊左衛門

当主実母之出所ハ鮒屋又左衛門也只今之小児成長之上又左衛門方家名相續可仕候事

深江村

岡　源左衛門

当住坊守之出所ハ正寿寺之娘ト成リ入嫁ス

深江村

正寿寺

三代以前之坊守之出所ハ鮒屋又左衛門也

此外親類数多御座候得共畧之

右之通リ書付岩田へ渡ス

一札　（加茂村岩田屋五良三郎〜照楽寺）

此度我等縁家之内当年二月生定藏ト申者其元殿へ以後不通ナル養子ニ進申候處実正也依之養育料トシテ金子五拾両御渡可申約束ニ候右金子之内只今拾五両御渡申候残三拾五両ハ生長之上得導願之節無相違急度御渡可申候爲後日差入申一札仍而如件

嘉永元戊申歳

十一月

加茂村

岩田屋

五良三郎

右受人池田西之口町

加茂屋

幸　助

同伊丹漆町

加茂屋

嘉　助

三條村

照楽寺殿

右之通リ岩田ゟ受取納候

一札　（深山宗詮〜三條村照楽寺）

此度御貰請被成候定藏義御生長之上脇ゟ悪智恵ヲ附ケ不法不義ヲ致方有之住持相續不被致節如何様ニ相成リ候共其時此度御持参之養育銀爲ニ取戻候様之事決而為致間敷候為後日仍而如件

嘉永元年申十一月

深山宗詮

三條村

照楽寺殿

右之通書添一札指入候義ハ先方へ指入候證文ニ万一当方ゟ不縁付候ハバ右養育料金子無滞返済可申候と書入無候事ヲ彼是源左衞門ゟ申出住持之愚痴ナル心配仕候ニ付右ハ證文之定法ナル後々心配ニ不及候他申聞候得共合点無之候ニ付無據岩田へ対早々納リ候様此一札ヲ以テ此場ヲ納候もの也

優曇華由来

加藤数馬兄龍伯弟吉田性ヲ名乗リ京都三条通リ埋忠町ニ於テ新宅ヲ構江、自分所持之梅忠如来ヲ祭リ度事宿念之処、病身ニテ時落不来残念之弟ヲ死期ニ至リ、妹菊江遺言之処、此妹モ多病ニテ難相達候ニ付安政二卯歳当方江来リ頼ミ候ニ付委細致承知候処従来娘八重弟埋忠如来之御命日ニハ当方之佛檀ヨリ京都江向ケ御佛飯ヲ備ヘ居候処安政三年丙辰歳十一月十五日法恩講相勤候ニ付佛檀致掃除候処天上内裏ヲ艮之方ニ当リ金泊中ヨリ三寸計リ之間白色ニ見ヘ拂ヘトモ不落能々見定メ候得バ花也依而拂残リ之花翌日住持伴僧三人参詣之上相尋候処壱人役僧得ゟ見定メ是ハ世上ニウドゲト唱ヘ候花也先年京都東寺弘法大師須弥檀之前欄干ニ出来諸人参詣致郡集候事有之候其節弔致参詣見覚有之候　此花之咲キ候事不思義之至リト云ヘリ

依而京都加藤老父江申達候処拝見ニ参リ度候得共老躰ニ而爲往還不案心ニ候故其花此之地ヘ送リ見セ呉候様ト頼ミニ付二本致持参委細申述ヘ候処是ハ埋忠如来世ニ出現之御気随ニ有之候哉と推察之上土藏ヨリ持出シ加藤家宗旨違ヒ之事故此方ニテ大切ニ致御給仕候様と相頼ミ十二月ニ逆リ下サレ候此咄シ世間ヘツタヘ人々拝見ニ参リ候翌巳年諸方遠近ヨリ夥數参詣人有之候人ヨリ夫夫聞傳ヘ左ノ通リ

一、大和國方違之宮之傍ニ庵室アリ德本上人弟子住居昼夜念仏修行中仏前之唐ヲ金子之香爐之縁チヨリ此花ヲ生シ諸人参詣ス

一、東都ニ久遠仏ト云アリ此寺ニ於テ金十香爐ヨリ生シタルヲ諸人拝見ニ参リト其時見覚有之ト者此宅ヘ参詣ス

一、江戸之街米屋之座敷樟子之情ヨリ出シタル事アリ又襖ノ縁ヨリ出シタル家モアリ

一、肥前唐津ニ酒造家ノ大黒柱ヨリ出シタル事アリ其時見物之人拙宅ヘ参リト

一、江戸街彫物師ノ居宅座敷天上裏ヲノ三寸ヨリ出シタル事アリ其弟子兵庫津西出町へ来リ致彫物居之節ニテ見物ニ来リ致物證ト右参詣人之咄ヲ聞傳へ色々噂イタシ候者モ有之御公義御目附ケ役人ヨリ小頭番人等ヲ以テ聞合セニ参リ委細頼ミ次第何ケ年以前ヨリ此仏檀此家ニアルヤ又何方之仏檀家ニ求メ候代價何程之仏具テ候哉何月何日頃ヨリ此花咲キ候哉との御頼ニ付一々的白ニ申上置候処其後何之御沙汰モ無之候

一、花之形□長サ凡一寸或ヒハア細キ事毛髪之如ク紫黒色光リアリ花白色小米粒之如ク何月頃ヨリ咲キ候哉不分明候得共凡七月頃ヨリノ事トモ推察ス辰年ヨリ巳午未歳ニ至リ不落花去僧来リ是迄咲キ候世間ノ咄ニハ三十日五十日相過キ候得共花ノ色紫黒色ニ変シ枯ルト云ヘドモ信心ニ依テ無際限ト云ヘリ

右優曇善法恩講ニ参リ初テ見定メテ伴僧恵雲子ハ越前国吉田郡高木村弥勒寺次男恵雲正寿寺伴僧也

本庄村史資料

深山家文書（追録一）

一九八六年三月三十一日発行

編著者　本庄村史編纂委員会

発行所　神戸深江生活文化史料館

神戸市東灘区深江本町三―七―五

印刷所　印刷ショップ　フタバ